



[千葉県東金市] 医療法人社団ケア・ユニティ

地域の糖尿病患者さんに安 治療を続けてもらいたい!!



ふるがき糖尿病
内科医院
院長

古垣齊拡氏

糖尿病を専門的に診療することができる医療機関が少なかった千葉県の山武・長生地域に2013年6月に開業したふるがき糖尿病 内科医院は、糖尿病や甲状腺の内分泌代謝疾患に加え、腎臓病や心臓病など糖尿病の合併症についても専門医が診療し、合併症予防に努めている。

地域の糖尿病治療を 継続していくために開業

ふるがき糖尿病 内科医院 院長の古垣齊拡氏が糖尿病医療の道に進むきっかけとなったのは、研修医時代に離島医療を経験したことだという。「研修医5年目に奄美大島の診療所に派遣され、糖尿病の合併症で心筋梗塞を発症したり、若くして透析治療を必要とする患者さんと接し、糖尿病診療の重要性を感じました」と語る。そこで、2007年に糖尿病治療で定評のあった千葉県立東金病院に入職し、糖尿病、甲状腺診療に従事。2011年に日本内分泌学会・内分泌代謝専門医を取得した後、2013年6月4日に東金市田間地区で「ふるがき糖尿病内科医院」を

開院した。故郷が鹿児島県だという古垣氏は専門医の資格を取得したら、鹿児島県に戻り開業するつもりだったという。しかし、2006年頃から医師不足などで赤字が増大していた東金病院が、2014年4月1日に東千葉メディカルセンターの開院に伴い、2014年3月末に閉院することが決まった。「閉院の1～2年前から医師が徐々に辞めて1000人くらいいた糖尿病患者さんを私の外来で管理していましたが、東千葉メディカルセンターが出来てもすぐには糖尿病患者さんを引き継げる体制にはならないということでした。東金市には糖尿病を診る専門医が少ないため、軽症の患者さんとはともかく、インスリンが必要な患者さんや合併症を持つ患者さんなど、重症患者さんは行き場を失ってしまいます。これは大変ということで、東金市に開業することを決意しました」と古垣氏は当時を振り返る。

その後、東千葉メディカルセンターは2015年4月に代謝・内分泌内科を開設し、連携医療機関として共に地域の糖尿病患者を支えている。

フルガキ・メディカルグループで 連携して合併症予防

「これからの糖尿病治療は合併症の予防と管理が重要です」と話す古垣氏は、ふるがき糖尿病 内科医院の開業に続き、2015年11月にふるがき糖尿病循環器クリニックを大網白里市に、2016年3月にとうがね中央・腎臓内科クリニックを東金市に継承開業した。「3つのクリニックは、フルガキ・メディカルグループとして、糖尿病の管理、特に糖尿病の合併症の管理を重視し、心臓病、腎臓病の専門医を配置して、糖尿病患者さんに複数の領域の専門医が対応できるようにしています」（古垣氏）。

心して

施設訪問

1



ふるがき糖尿病循環器クリニックは内科全般、糖尿病、甲状腺疾患の他、心臓病の専門医が常勤し、心筋梗塞など糖尿病の合併症としても多い心臓病の早期発見・早期治療に努めている。一方、とうがね中央・腎臓内科クリニックは腎臓病、糖尿病を中心に、リウマチ、甲状腺、内科全般を診療する。また19床の病棟があり、糖尿病、腎臓病の教育入院等も行っている。古垣氏は「糖尿病に多い腎臓病、心臓病は自覚症状がないので、定期的なスクリーニングが必要です。フルガキ・メディカルグループでは検査機器を導入し、各クリニックが連携して、これらの疾患を定期的に検査し、重症化予防に取り組んでいます」と話す。

地域の糖尿病患者を最後までサポート

全国の例も漏れず、山武・長生地域も高齢化が進んでいる。「75歳以上の高齢者では、運転免許を返納するな

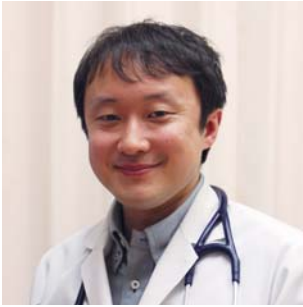
どして交通手段が無くなり、通院困難になる人も少なくありません。この地域は在宅医療を行っている医師が少ないので、このままでは治療を中断してしまう患者さんが増えてしまいます。そこで当院では通院困難の患者さんのために、送迎バスの運用を近く予定しています」と古垣氏。送迎バスが必要な患者リストはすでに80人を超えるという。「高齢化の問題は今後5～10年後に、さらに深刻な状況になると思います。地域の課題として在宅医療を行う医師を増やしていかなければなりません、訪問診療が必要になる一歩手前の人たちも私たちはサポートしていかなければなりません」と古垣氏。「地域のニーズを拾い上げて、最後まで糖尿病合併症が進行しないようにサポートしていくことが私たちの使命です。そのためにはこのクリニックが50年後、100年後も存在し続け、同じ役割を続けていくことが何より大切です。クリニックは地域の公器であるという意識でこれからも務めていきたいと思います」と古垣氏は言い切った。



とうがね中央・腎臓内科クリニック



ふるがき糖尿病循環器クリニック



ふるがき糖尿病 内科医院 医師
吉川 玲欧氏

Profile

東京医科歯科大学医学部卒業後、国立国際医療研究センター国府台病院で研修後、同院総合内科に勤務。2016年11月よりふるがき糖尿病内科勤務。日本糖尿病学会専門医。



糖尿病の治療をどのように行っているのか教えて下さい。

糖尿病治療は初診が重要です。初診時はまず問診で患者さんの生活背景、社会的状況などを聞き取り、個々の患者さんに合った治療方針を提案します。普段の診療では患者さんに継続して治療を続けて頂けるよう、焦らず時間をかけて話をするように心がけています。

糖尿病治療では合併症予防に最も気を付けなければなりません。当院では糖尿病合併症の検査が一通りできる設備を整えています。また合併症予防には食事療法や運動療法が重要です。患者さんは、HbA1cの

数値に一喜一憂しがちですが、それよりも日々の食事や運動に気を付けることが大事ですので、毎回テーマを決めてワンポイントで話しています。例えば、2型糖尿病の男性に多いのですが、ご飯を食べるスピードが早く5～10分で食べ終わってしまうという人がいます。早食いは血糖値の上りが早いので30分くらいかけてゆっくり食べるように指導します。また食事を食べる順番は野菜を最初に食べるベジファーストが血糖値を急激に上昇させないことなども指導します。動脈硬化などの合併症の予防には食後高血糖を抑えることが有効ですので、そうしたことを説明しながら指導しています。

医療研修施設 ニプロiMEP

研修案内は
ニプロホームページから
http://med.nipro.co.jp/imep_entrance



滋賀県草津市野路町

ニプロ株式会社

〒531-8510 大阪市北区本庄西3丁目9番3号

2017年4月作成